

「NIPPON防災資産」の認定について

国土交通省 水管理・国土保全局
河川計画課

令和6年10月22日

「水災害リスクを自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす

流域治水の自分事化検討会」とりまとめ

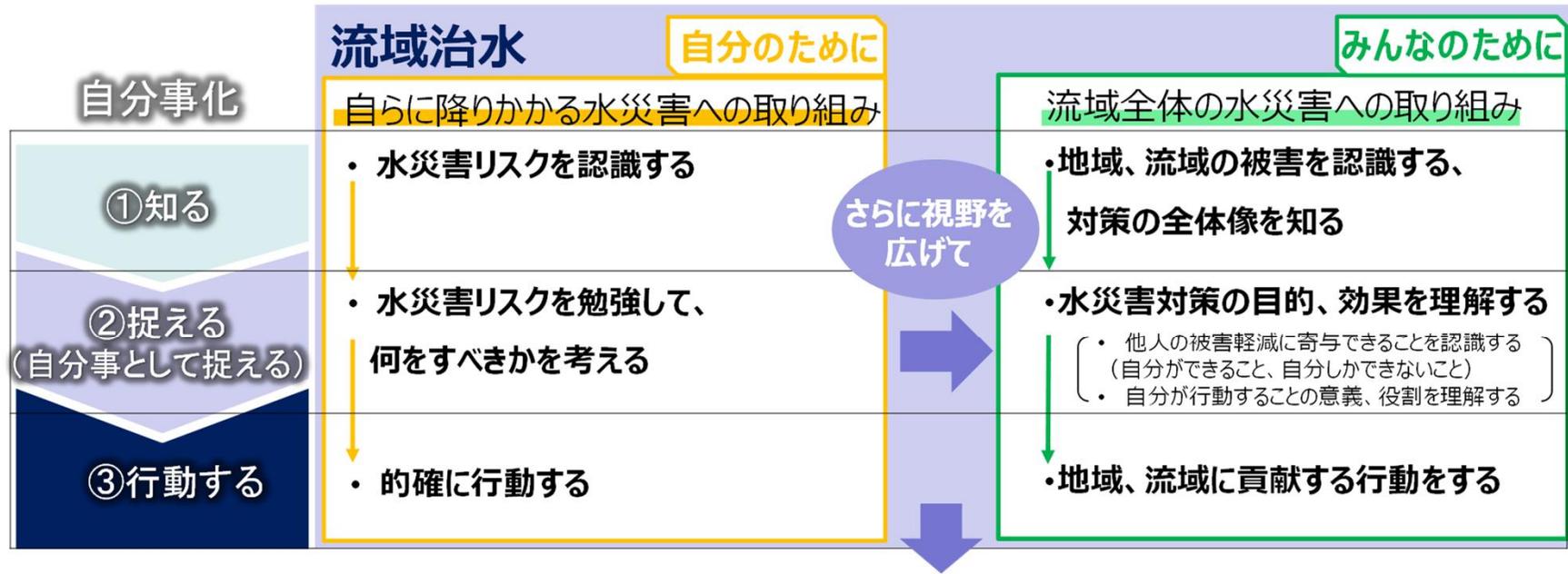
流域治水推進上の背景・課題

水災害リスクの自分事化

住民や企業などが自らの水災害リスクを認識し、自分事として捉え主体的に行動する。

流域全体の水災害への取り組みへ

水災害から自身を守ることからさらに視野を広げて、地域、流域の被害や水災害対策の全体像を認識し、自らの行動を深化させることで、流域治水の取り組みを推進する。



持続的な発展、ウェルビーイング

水災害のリスクを知り、行動につなげていく上では、それを自分のこととして捉える「自分事」が課題。

さらにその視野を流域に広げ、流域治水に取り組む主体を増やしていくことが重要。

検討会を設置して議論、とりまとめ

検討会概要、自分事化の取組方針

水害リスクを自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化検討会

- 第1回 令和5年4月28日 ……水災害リスクの自分事化に向けた論点整理
- 第2回 令和5年5月25日 ……各地における取組事例の紹介（委員から7事例）
- 第3回 令和5年6月19日 ……とりまとめ議論
- 令和5年8月30日 ……とりまとめ公表（報道発表）



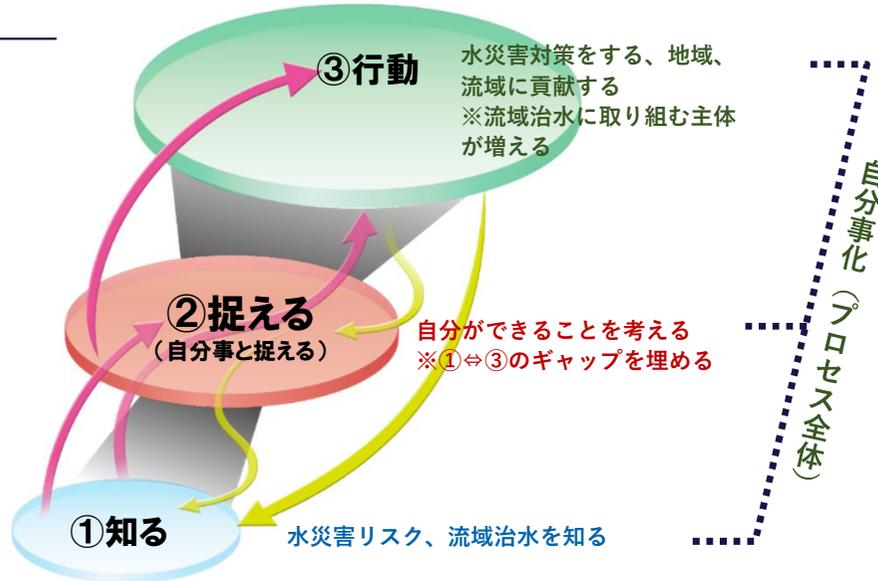
委員（敬称略、五十音順）

- 伊東 香織 岡山県 倉敷市長
 - 今若 靖男 全国地方新聞社連合会 会長（山陰中央新報社 取締役東京支社長）
 - 加藤 孝明 東京大学生産技術研究所 教授
 - 小池 俊雄 国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター長
 - 河野 まゆ子 株式会社 JTB 総合研究所 執行役員 地域交流共創部長
 - 指出一正 株式会社 sotokoto online 代表取締役
 - 佐藤 健司 東京海上日動火災保険株式会社 公務開発部 次長
 - 佐藤 翔輔 東北大学災害科学国際研究所 准教授
 - 下道 衛 野村不動産投資顧問株式会社 執行役員 運用企画部長
 - 知花 武佳 政策研究大学院大学 教授
 - 中村 公人 京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻 教授
 - 松本 真由美 東京大学教養学部附属教養教育高度化機構 客員准教授
 - 矢守 克也 京都大学防災研究所 教授
 - 吉田 丈人 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
- ※○委員長

自分事化の取組方針

取り組みの例

- ・要件化・基準化
- ・トップランナーの育成
- ・流域治水への貢献
- ・ビジネスへの支援
- ・流域対策への支援
- ・取り組み、効果の見える化
- ・連携活動
- ・教育活動
- ・流域治水の広報
- ・リスク情報等の提供



大局的には①知る→②捉える(自分事と捉える)→③行動の流れを作り、取り組みの幅を広げ、トップランナー育成や要件化・基準化等を通して流域にも視野を広げていく。

そして、意識の醸成を図り、流域治水を国民運動、日本の文化に（目指すところ）

日々の生活の中で水害、防災のことが意識され、全国的に水災害リスクの自分事化が図られ、その視野が流域に広がり、社会全体が防災減災の質を高めるとともに、持続的に発展していく。

水災害を自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす総力戦の流域治水をめざして

施策体系

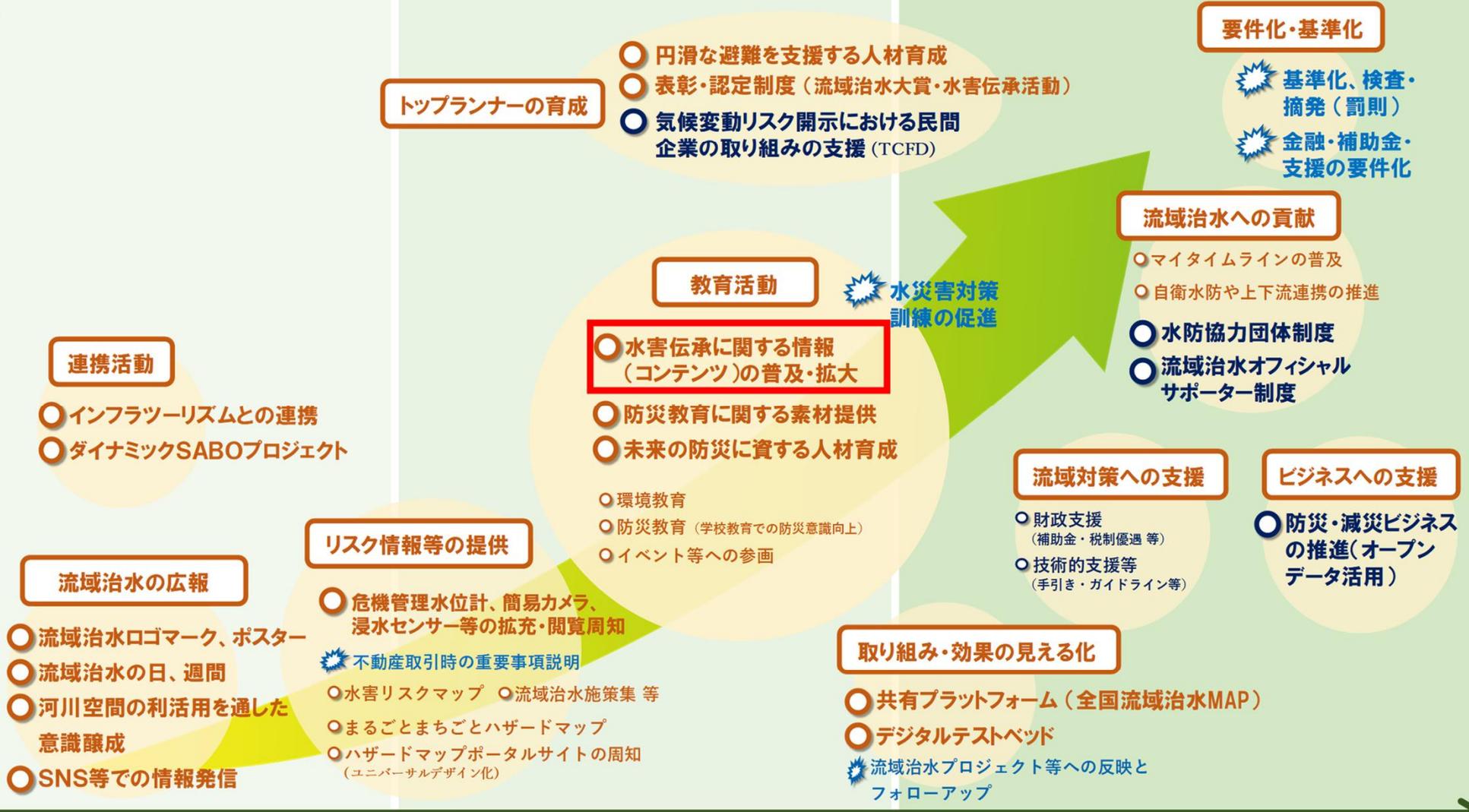
細字：既存施策
太字：新規施策

○ 自発的な取り組みを促す施策

○ 特に企業を対象とした施策

☀ 一定の強制力を伴う施策

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

「NIPPON防災資産」の認定制度について

- 内閣府、国土交通省では、地域で発生した災害の状況を分かりやすく伝える施設や災害の教訓を伝承する活動※などを「NIPPON防災資産」として認定する制度を新たに創設（令和6年5月）。
[内閣府特命担当大臣（防災）、国土交通大臣が認定] ※活動：語り部、防災に係る催事、防災ツアー等
- 今後、認定された防災資産を通じて、住民の方々が過去の災害の教訓や今後の備えを理解することで、災害リスクを自分事化し、主体的な避難行動や地域に貢献する防災行動につなげていく。

背景

- 近年、全国各地で災害が発生し、災害後には「まさか自分が被災者になるとは…」という声が発せられるなど、多くの人が災害を自分のこととしてとらえていない。
- 一方で、過去の災害の伝承により、命が救われた事例もある。

災害リスクの自分事化に向けて

- 認定された防災資産を通じて、住民の方々が過去の災害の教訓や今後の備えを理解することで、「災害リスクを自分事化」し、「主体的な避難行動」や「地域に貢献する防災行動」につなげる。

内閣府特命担当大臣（防災）、国土交通大臣による認定

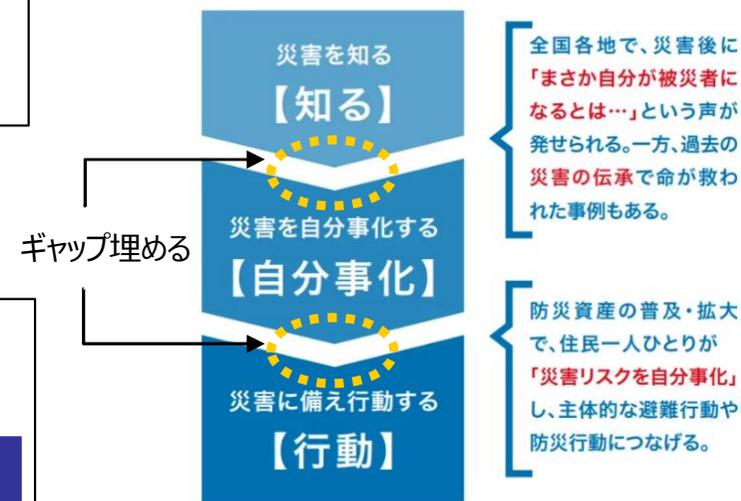
- 内閣府特命担当大臣（防災）、国土交通大臣が認定を実施。
「優良認定」、「認定」に区分。

- ・「NIPPON防災資産」認定証の授与
- ・ウェブサイト等でコンテンツを紹介

防災資産の普及・拡大によりこの国に暮らすひとりひとりが、災害リスクを自分事化し、主体的な防災行動へ



ロゴマーク



第1回「NIPPON防災資産」の認定案件を決定



○ 有識者による選定委員会での審議を踏まえ、本制度の創設後初めて、22件(優良認定:11件、認定:11件)を認定しました。【令和6年9月5日公表】

優良
認定
(11件)

No.	名称	認定者	活動拠点	対象災害
1	洞爺湖有珠火山マイスター	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会	北海道 洞爺湖町	有珠山噴火災害
2	3.11伝承ロード	・一般財団法人 3.11伝承ロード推進機構 ・震災伝承ネットワーク協議会	青森県 岩手県 宮城県 福島県	東日本大震災
3	孺恋村・天明三年浅間山 噴火災害語り継ぎ活動	鎌原区・鎌原地区活性化協議会	群馬県 孺恋村	天明3年浅間山噴火災害
4	えちごせきかわ 大したもん蛇まつり	関川村	新潟県 関川村	昭和42年8月羽越水害
5	阪神・淡路大震災 記念 人と防災未来センター	兵庫県	兵庫県 神戸市	阪神・淡路大震災
6	和歌山県土砂災害 啓発センター	和歌山県土砂災害啓発センター	和歌山県 那智勝浦町	平成23年紀伊半島大水害
7	稲むらの火の館	広川町教育委員会	和歌山県 広川町	安政南海地震
8	広島市豪雨災害伝承館	・広島市 ・一般社団法人梅林学区復興まちづくり協議会	広島県 広島市	平成26年8月豪雨
9	四国防災八十八話マップ	四国防災八十八話・普及啓発研究会	徳島県 香川県 愛媛県 高知県	四国における全ての災害
10	黒潮町の防災ツーリズム	黒潮町	高知県 黒潮町	南海トラフ地震による津波災害(想定)
11	熊本地震 記憶の廻廊	熊本県	熊本県	平成28年熊本地震

認定
(11件)

No.	名称	認定者	活動拠点	対象災害
1	奥尻島津波館及び奥尻島津波語り部隊	・奥尻町教育委員会 ・奥尻島津波語り部隊	北海道 奥尻町	平成5年北海道南西沖地震
2	厚真町震災学習プログラム	一般社団法人厚真町観光協会	北海道 厚真町	平成30年北海道胆振東部地震
3	栗駒山麓ジオパーク	栗駒山麓ジオパーク推進協議会	宮城県 栗原市	平成20年岩手・宮城内陸地震
4	信濃川大河津資料館を拠点とした地域活性化の取組	・北陸地方整備局 信濃川河川事務所 ・NPO法人 信濃川大河津資料館友の会事務局	新潟県 燕市	信濃川における水害全般
5	土岐川・庄内川 流域治水ポータルサイト	土岐川・庄内川流域治水協議会	愛知県 名古屋市	土岐川・庄内川における水害全般
6	福知山市治水記念館	福知山市	京都府 福知山市	昭和28年9月台風第13号等
7	坂町自然災害伝承公園	坂町	広島県 坂町	明治40年、平成30年7月豪雨
8	乙亥会館災害伝承展示室	西予市	愛媛県 西予市	平成30年7月豪雨
9	雲仙岳災害記念館	長崎県	長崎県 島原市	雲仙・普賢岳噴火災害
10	念仏講まんじゅう配り	長崎市山川河内自治会	長崎県 長崎市	万延元年(1860年)土砂災害
11	大分県災害データアーカイブ及びフィールドツアー	大分大学減災・復興デザイン教育・研究センター	大分県 大分市	大分県における全ての災害

第1回NIPPON防災資産 選定委員会
委員名簿

氏名 所属
大知 久一 一般社団法人日本損害保険協会専務理事
佐藤 翔輔 東北大学災害科学国際研究所准教授

氏名 所属
曾山 茂志 全国地方新聞社連合会会長(西日本新聞社執行役員東京支社長兼編集長)
徳山 日出男 一般財団法人国土技術研究センター理事長

(敬称略、五十音順)

第1回NIPPON防災資産認定式を開催（令和6年9月5日）



- 「第1回 NIPPON防災資産 認定式」を開催し、松村祥史内閣府特命担当大臣（防災担当）と齊藤鉄夫国土交通大臣から、優良認定案件【11件】の対象者に認定証が授与されました。
- 認定式後に行われた意見交換会では、優良認定の各代表者から取組内容や今後の意気込みなどについて発表があり、活発な議論がなされました。

日時等

- 日 時 : 令和6年9月5日(木) 13:15～
- 場 所 : 砂防会館(東京都千代田区平河町2-7-4)
- 出席者 : 松村内閣府特命担当大臣(防災)、齊藤国土交通大臣
優良認定の各代表者

意見交換会の開催状況



取組概要や今後の意気込みの説明状況

式典の開催状況



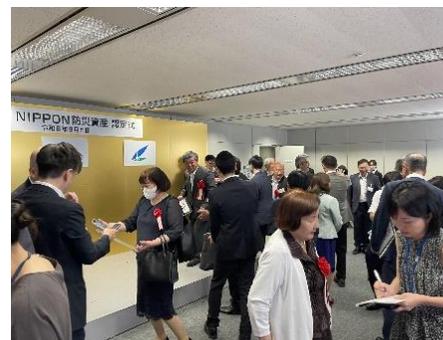
挨拶を述べる
齊藤大臣



認定証授与の様子



優良認定代表者から
の挨拶の様子



マスコミからの取材の様子

○意見交換会であった主な発言(今後の活動方針など)

- 地元の高専生と防災学習用のコンテンツの開発、ロールプレイングゲームで防災を学ぶなど、プログラミングと防災と一緒に学ぶ新しい試みを進めていく。【和歌山県土砂災害啓発センター】
- 次の噴火で1名も犠牲にしないを目標に、「地元の子供たち全員に教え続ける」という方針を今後も継続していきたい。【洞爺湖有珠火山マイスター】
- 8世代、9世代と語り継いできたこの活動を、他の取組との深い連携や融合を図っていきたい。【孺恋村・天明三年浅間山噴火語り継ぎ活動】
- 毎年5冊の防災絵本を出版し、これを各国語に翻訳して海外にも発信していきたい。100年後には、災害が多発している途上国など各国に向けて500冊の防災の絵本や紙芝居をつくることを目標に頑張っていきたい。【阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター】
- 八十八話マップは、各県4年に1度更新を実施している。今後もバトンをとさないように更新を継続していきたい。【四国防災八十八話マップ】
- 今後も、多くの教育旅行等とコラボしながら防災意識が向上する取組を進めていきたい。【熊本地震 記憶の廻廊】
- 災害から自分を守る技術を子供たちにも身につけてほしいので、資料館に学生が勉強するスペースを設けていきたい。【広島市豪雨災害伝承館】